

高速横浜環状北西線の 環境影響評価準備書説明会の開催状況について

平成 21 年 10 月 18 日から 21 日にかけて高速横浜環状北西線の環境影響評価準備書説明会を開催し、市民のみなさまへ環境への影響についてご説明しました。

1 環境影響評価の手続きの経緯

高速横浜環状北西線の環境影響評価手続きは、平成 18 年 8 月に環境影響評価方法書を縦覧することで始まり、その後、現地調査を実施し、都市計画案の検討と並行して予測評価を行ってまいりました。平成 21 年 10 月 9 日に神奈川県が環境影響評価準備書を作成しましたので、縦覧期間中に準備書の内容について周知するため、10 月 18 日から 4 日間、北西線の沿線の 4 会場で説明会を開催しました。

2 環境影響評価準備書説明会の開催状況

開催日	10/18(日)	10/19(月)	10/20(火)	10/21(水)
開催場所	谷本小学校	川和東小学校	折本小学校	都筑スポーツセンター
参加者(201名)	38名	56名	35名	72名



谷本小学校の説明会の状況(10/18)



川和東小学校の説明会の状況(10/19)

3 説明会での環境に関する主な質問

<大気質>

- ・大気質の予測値は、換気所に除じん装置などにより公害物質を除去した後の数値なのか。
- ・鶴見川周辺の風の流れや大気状況を把握して予測評価を行っているのか。
- ・現地調査で計測した気象調査データなどを見ることはできないのか。

<振動>

- ・トンネル区間について、実際の生活にどのような影響が生じるのか具体的に説明して欲しい。

<地盤沈下>

- ・地盤沈下について、過去に実施した鉄道や河川関係の工事データなどの事例を調べていないのか。

<地下水>

- ・工事中にトンネルへの水漏れや水脈を切るなどの地下水への影響は、本当に大丈夫なのか。

<低周波音>

- ・低周波音による健康被害が発生する場合もあるが、準備書の概要では、数値が示されているだけで対策が示されていない。低周波音の発生を抑える対策をやっていくのか。

<事後調査>

- ・完成後に予測値を超過した場合の被害に対する補償はどのようにするのか。

<工事損失補償>

- ・工事中の家屋被害や移転など生じた場合の具体的な補償について教えて欲しい。

4 準備書の縦覧と意見書の提出状況

環境影響評価準備書については、市民のみなさまがより詳しくご覧いただけるよう、下記の場所で10月9日から11月24日まで縦覧を実施しました。

また、この期間中に環境の保全の見地からの意見書を受け付けました。

神奈川県県土整備部都市計画課
横浜市環境創造局環境影響評価課
まちづくり調整局都市計画課
港北区・緑区・青葉区・都筑区の区政推進課

5 今後の進め方

北西線の環境影響評価の手続きについては、横浜市環境影響評価審査会の答申を踏まえ、準備書に対する市長の意見を作成します。

神奈川県では、住民のみなさまからいただいた意見書の要旨と見解をとりまとめ、神奈川県環境影響評価審査会の答申、準備書公聴会の市民意見、さらに市長の意見を考慮して準備書に対する神奈川県知事の意見を作成します。

これらの答申や意見を参考に県が環境影響評価書を作成し、環境大臣、国土交通大臣の意見を踏まえ、必要に応じて評価書を補正し、都市計画案とともに都市計画審議会に付議します。

